資料１－２

第 78 回全国植樹祭高知県実行委員会 設立趣旨

高知県は、全国一位の森林率 84%を誇り、四国カルストを有する四国山地や、東西に広がる海岸線から望む太平洋に注ぐ四万十川、仁淀川、物部川をはじめとした清流などの多彩な自然環境を背景に、多様な植物種が生育しています。

なかでも、日本三大スギ美林の一つで県木でもある魚梁瀬スギや、四万十川流域のヒノキに代表される森林資源は、古くから地域の経済や文化、住民の暮らしを支えてきました。

この豊かな森林資源を最大限に活用するため、様々な施策を講じてきた結果、原木の生産量は大きく増加しました。さらに森林資源の循環利用を進めるため、伐採後の再造林の推進や担い手の確保に取り組んでいます。

また、本県では、全国に先駆けて森林環境税を創設して、官民を挙げて森林保全活動を展開してきました。森林は、災害や地球温暖化の防止、里・川・海を潤すなど、私たちの暮らしを支える重要な役割を果たしています。

持続可能な社会を実現するためには、「伐って、使って、植えて、育てる」という循環を通じて、次世代へ豊かな森林を引き継いでいくことが一層重要となります。

こうした中で、令和 10 年春に「第 78 回全国植樹祭」を本県で開催することは、極めて意義深いものです。

この「第 78 回全国植樹祭」を、街や山村に住む一人ひとりが自然と共生しながら森林の役割を理解し守る行動を促すとともに、中山間地域の基幹産業である林業の発展を後押しする契機とし、全国からの参加者が「元気で豊かな、そしてあったかい高知県」を実感いただける大会とするため、県内の幅広い機関、団体の参画のもと、全国植樹祭の成功に向け「第 78 回全国植樹祭高知県実行委員会」を設立します。

令和７年９月５日